

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200438		
法人名	医療法人 六峯会		
事業所名	グループホーム グリーンピース あま城 あさひ		
所在地	倉敷市藤戸町藤戸1406-1		
自己評価作成日	H26年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200438-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成26年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑の多いゆったりした環境にあり散歩に出かけて地域の方との立ち話もよくある。年々地域の方に受け入れられてと感じる。その人その人に合った暮らしや楽しみを実現するにはどうしたらいいか毎月のミーティングで意見を出し合いケアの向上に努めている。行事予定を立て月に1回の夕食や秋の小旅行に出かけて喜んで頂いている。職員はベテラン主婦が多く3食の手作り料理は、ホームの菜園でご利用者と一緒に収穫した物もあり、家庭の温もりを大事にしている。ご利用者の食べたい物を聞きメニューに上がる事も多い。台所仕事、掃除等をできる方にできる事を職員と一緒にやっている。ご家族、親戚の方々が訪問しやすい雰囲気作りやコミュニケーションに努めています。「夏のタベ」クリスマス会「春の集い」には、ご家族、地域の方、職員と一緒に食事をしながら親睦を深める機会もある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園風景が残る緑豊かな住宅地に事業所は位置している。法人の老人保健施設と診療所が車で15分圏内に在る為、医療の連携も取れており、安心して生活を送ることが出来ている。グループホームの敷地内にある大きく茂った泰山木の下で、天気の良い日は朝の一時を入居者同士が集い合い、ティータイムを楽しみ、歌を口ずさみ、寛ぎの時を楽しんでいる。職員は個別ケアを重視し、入居者の気持ちに寄り添い、不穏時には気分転換を図る等して入居者は心穏やかに暮らしている。運営推進会議には多数の地域運営委員が出席し、地元との繋がりを持ちながら話し合いを行い、運営に反映させている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	2. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人ひとりの想いを大切に、触れ合いと交流のある暮らし」の理念を踏まえ、想いを尊重し今までの生活に近づけ、地域と触れ合いがもてる支援を目指して。内部研修で理念の共通認識ができる場をもっている。	各ユニットの入口に掲示し、内部研修にて理念を再認識して共有し、実践に繋がるよう努めている。入居者は一人ひとりの想いを大切にされ、今までの生活が継続出来る様に支援を受け、地域と交流しながら暮らしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の老人会のカラオケ大会や夏祭りに参加して。秋祭りに子供神輿が入り触れ合いもあり、地域の公園や溝掃除に住民として参加して。隣の施設と苗の購入、リサイクル品の提供、時に駐車場の融通をしてる	老人会のカラオケ大会や夏祭りに出掛け、秋祭りに子供神輿が訪れてくれる。地域住民の一員として公園や清掃奉仕に参加している。隣の施設とは花の苗の購入等色々な面で付き合いを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	住民のコミュニティの開催時に認知症の予防、早期発見、接し方について話す機会を頂いた。グループホームについても質問が出た。運営推進会でも上記の内容で意見交換をし理解を深めて頂き協力もお願いした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月での運営推進会議では、各分野からの出席がある。留任の方も一層のご理解を得ている。ホームでの取り組み、現状と困っている事等の報告を行い、意見を聞いて相談できる機会となっている。	運営推進会議には地域包括・家族・地域推進委員等が参加し話し合いが行われている。また認知症の理解を深める講和、ホームでの取り組みや活動報告、現状報告を行い、参加者の意見を伺っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターからは毎回、運営推進会議の出席で事業所の現状を報告、アドバイスや意見を頂いている。市役所へは各種の報告や相談をしている。	運営推進会議には地域包括支援センターの職員が参加しており、定期的にサービスの実践内容を報告出来る機会があり、相談等にも応じてもらっている。介護連絡協議会にも出席して協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロ宣言」の掲示をしている。内部研修ではどのような態度や言葉が拘束にあたるかを話し合い意識を高めている。現在のご利用者の状況からは、玄関の開錠が難しいが開錠に向け検討は続けている。	内部研修で職員の態度や言葉使いがどのような拘束にあたるか具体的に話し合い、気をつけてケアに努めている。帰宅願望の強い方には気分転換を兼ねて散歩に出掛けたり、本人の思いをゆっくり聴いたりしている。	開錠に向けて行動の分析・検討をして対策を考案中。「家に帰りたい」という本人の想いを汲み取り、気持ちに寄り添う対応をこれからも期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても内部研修で話し合い、職員が意識をもって日常のケアを行っている。身体的以外に言葉や態度、介護拒否も含まれる事を例に挙げている。ご利用者の表情や身体的な異常の発見に留意している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を活用されている方は居られる。必要時は制度の利用を考えていき関係機関と連携を図っていきたい。外部研修の機会には参加し、より理解を深め職場に復命していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時の説明で分かり難い時は、不安が表せる対応に努め、納得の上で入居して頂いている。契約内容の変更の度に説明し同意を得ている。長期ご利用の場合の経済面について話をする機会を作っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱や苦情受付窓口を設け、ご意見を受ける体制を作っている。又、ご家族の来訪時にはゆっくり話ができる環境を心掛けている。苦情に対して職員間で情報を共有して改善取り組んでいる。	面会時・運営推進会議時に意見や要望を聴く機会を設けたり、意見箱や苦情受付窓口を設置したりしている。入居者の行事活動時の様子や反応を観察して、運営の在り方を判断をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットで毎月のミーティング時にホームの現状や職員の想いを意見として出し合い、解決に向けて取り組んでいる。必要時には代表者に伝え相談している。	毎月のミーティング時に意見や提案を話し合い、自己評価や自己目標を立て、やりがいのある職場作りに努めている。行事活動報告書に運営への意見・反省点を記入して今後の運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい、やりがいを感じ向上心を持って働ける職場環境へと支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の行事研修計画を基に各月のテーマでミーティング時に内部研修をしてる。外部研修の参加後は復命し情報を共有しサービスの向上に努めてる。日々の介護場面での問題を話し合い対応を考え実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護連絡協議会、地域医療センター、他法人の同業者と交流があり連携をしている。日頃の仕事での困り事等を話し意見交換をして交流をもちサービスの向上に反映したいと考える。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事業所の情報とご本人、ご家族の要望、生活歴、趣味等の情報を基に早く寄り添え安心な居場所となる関係作りがケアプランとなり情報を共有し取り組んでる。ご利用者間の雰囲気作りも留意している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にホームの見学をして貰い、環境や雰囲気、職員の様子を観て頂いている。ご利用者ご家族の要望、不安な点を聞き、ホームの方針を説明し話し合いながら理解が得られるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報を含めご利用者、ご家族の要望を基に性格や現状状況を踏まえて「何が必要か」を話し合い介護計画を立て対応している。その後ご利用者の姿を把握し段階的に支援の見直しをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の体調に合わせ、できる人にできる事を一緒にしている(洗濯物の取り入れ、畳む、掃除、食事作り、食器洗い) お食事やお茶を一緒に頂き、テレビや新聞の話題で笑ったり、感動したりすること多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族を始め親戚の方の来訪が度々あり、昔話で盛り上がり生き生きとした笑顔があり有難い。医療機関への受信の協力、又「息子と寿司を食べたい」と言われ伝言すると応じて頂きご家族との外出の機会はある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前からの行きつけの美容院に「慣れているから安心しておれる」と継続されている。又、ご家族と食事に出かけられ、「今度は一泊で旅行に行きたい。」と話されるご利用者もある。	家族と法事や墓参り、外食、一時帰宅が出来る様に支援している。馴染みの美容院や足の神様への参拝に出掛けている。散歩で出会う住民とは馴染みの関係が出来、日常会話を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	隣の席の方に座り易く椅子の向きを変えてあげられ「ありがとう」と返礼され嬉しく思う。席の近くの方が入院されたら「あの人はどうしたん姿を見んが～」と心配される。ご利用者間の思いやりに触れる機会はよくある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の方を見舞ったり、その後の事を電話して下さる方もある。果物等の収穫物を持参下さり懐かしく思い出話をして帰えられる人もある。同法人の老健施設へ移られた方には訪室し話をして帰ることも多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者とゆっくり話す機会を大切にしている。「我がままは分かっているが、本当は晩酌がしたいんじや」と言われ検討中である。意思疎通の難しい方については、成功例を職員間で情報の共有をして関わっている。	本人とゆっくりコミュニケーションを図り、本音や要望を聴いている。生活歴、習慣、性格等を勘案して思いや意向の把握に努めている。今までの生活スタイルを尊重した暮らし方を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今の姿に至るまでを、ご利用者、ご家族、ケア関係者からの情報を基にして、ご本人の生活スタイルを尊重した支援としている。、持参物も今までの馴染みの物をお願いし、安心して暮らして頂きたいと思っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの習慣、生活歴、性格等を受け止め、持てる力が生活の中に出せるように、職員は事前の情報でケアに反映できるようにしている。できた事を一緒に喜び自信に繋がる支援に心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族の要望を基に、毎月のケアカンファレンス時に意見を出し合い方針を話し合いケアの統一ができるようにしている。何か問題や、変化があればプランを見直し変更している。	本人や家族の要望に沿った課題を捉え、具体的な介護計画が作成されている。ケアカンファレンスにてケアの方針・在り方について話し合い、3か月毎にモニタリングを実施してサービスの進捗状況をチェックしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人ケア記録に介護計画のサービス内容が記入しており、職員は必要なサービスの導入が分かり易く、日々のケアを実践し記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な要望に応じるには難しい面はあるが、隣ユニットと協力し臨機応変にと考えている。時には職員がボランティアでゆっくりと要望に応じる事もある。少し遠出の秋の小旅行はとても喜んで頂けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の老人会、子供会、消防団、幼稚園との繋がりができており、行事への招待がある。地元のご利用者も居られ、近所の散歩で立ち話となる事もある。地元の職員が地域との繋がりに大きな力となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医の説明では、ご利用者ご家族の意向で決まっている。緊急時の搬入先をご家族の要望で決まっている。現在は3か所からの往診を受け入れている。又、月に2回の歯科往診もある。	本人、家族の希望により、かかりつけ医の受診継続をしている。利用者毎にかかりつけ医が違う為、各々の先生が往診に来てくれており、安心して生活が出来る様支援している。歯科往診、週1回の歯科衛生士による口腔ケアも実施されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師の配置があり日々の健康管理は充実している。24時間のオンコール体制で状態の変化等を相談しやすく、必要時は来訪して対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は今までの生活を含めた情報提供をし、入院でのストレスの軽減を願っている。地域医療連携室との連携で治療の状況、今後の方針の情報を貰っている。職員が変わる代わり見舞い笑顔を見せて貰い状態把握をして1日も早い退院へと支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約時に、重度化した場合、看取の指針の説明を行い理解を得て同意を頂いている。容態に変化があるとご家族、主治医の話し合いを持ち事業所のできる事、できない事を伝えて方針を固めている。	入所時に重度化した場合の対応に係る方針について家族に説明し、同意書を交わしている。看取りの条件が合えば、終の棲家として終末期のケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルを基に内部研修を行っている。AEDの設置があり出前講座を受けた。吸引機はすぐに使用できるようにしている。緊急時の連絡網の作成はできている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	推進委員さんの協力を頂き、年に2回の避難訓練を行いご利用者の誘導にも参加して下さる。地元の消防団員さんの協力が得られて繋がりができている。災害発生時に備えての最低限の飲食料品の備蓄がある。	年2回、避難通報マニュアルに基づき運営推進委員の協力を得て一緒に避難訓練を実施している。自然災害に対する防災マニュアルを作成中。消防団員から防災の指導を受け、災害時の飲食料品の備蓄をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の体調や生活リズムに合わせた声掛けや想いを受け止め、自信をもって生活して頂く気配りをしている。内部研修でプライバシーの確保、守秘義務について具体的な例を出し話し合いの場をもっている。	散歩時には寄り添って話をし、想いの表出が出来る様急かさない対応を心掛けている。本人の希望やペースに合わせた暮らしの支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの想いが表出できる談話の時間をもっている。食べたい物を聞き食事メニューになる。一人ひとりの想いに気付く事を職員間で意識をもって関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の生活ペースに合わせた暮らしを優先にした関わり方をしている。居室で過ごす人、TVを見る人、リビングでゆっくり過ごす人、急に散歩に出かけたい人に付き合うことも再々ある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居前から利用されてた美容院へ引き続き行かれ、毛染めをしパーマを当てておられる。又洗顔後の化粧水、乳液で手入れをされる人もある。「今日の服はこれでええかなあ」と聞かれる人もありおしゃれである。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食手作りにて食べたい物、お誕生祝いのメニューと臨機応変で対応してる。食材の下準備を頼むと男性も手際よい。食器洗いも慣れたものです。毎食前には口腔体操を行い食事メニューを説明してから頂いている。	庭に菜園を設け、野菜を植え、草取り等の管理を行い、収穫して料理に使用し、旬の味を堪能している。時には外食に出掛けたり、行事食・誕生日等の特別食のメニューを作成したりと食事を楽しむ支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の体調、病歴に合わせて量、塩分、刻み方、トロミ等の対応の食事になっている。食後の摂取状況を記録し、栄養や水分不足を把握し早目の対応を心掛けている。水分を取り難い人にはゼリーを作り対応してる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは定着しており、見守りの人、一部手伝いの人がある。又週に1回は歯科衛生士による口腔管理指導があり、2週に1回は歯科医の訪問があり必要な人だけの治療がある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの一日の排泄表を基に、必要時の声掛けをしたり、仕草を察知してトイレへと誘導し失敗を減らして気持ちよくトイレで用を足して頂く支援をしている。	「便所」と大きく表示してトイレの位置を分かりやすくし、自立を促している。排泄パターンを把握して、随時声掛けし誘導をしている。座位が取れば介助を行いトイレでの排泄を基本としている。朝の牛乳や水分、体操や散歩を取り入れ、便秘の管理をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各人の好みに合わせて朝に牛乳やお茶を飲んで頂いて。野菜の多いメニューとしている。毎朝のラジオ体操や散歩に出ている。そして1日の水分摂取状況の記録を基に水分不足を早目に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3回を入浴予定として、気分、体調で変更し清拭、足浴になる事もある。その人のペースでゆったりと向き合える大切な時間となっている。冬場は早目に寒くないように脱衣場等の温度調整をしている。	本人の意向を確認して入浴の誘導をしているが、拒否時には時間を変える等、工夫をしている。入浴剤を使用して変わり湯を楽しむ、季節になれば、柚子湯・菖蒲湯にて季節感を味わう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後に短時間、横になられる人、TVを見られる人、リビングで過ごされる人と自由に自室を出入りされご本人のリズムができて。夜間帯のトイレにはいつも灯りが点いており安心して行かれる支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1回ずつの薬包に日付、氏名、用法の印字があり確認し易くなっている。取り出しから服用までに3回の確認を徹底している。薬情報は毎日の個人記録の前にあり、いつでも見られる体制にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の持てる力を出し、出来る事に参加して頂いている(食材の下準備、食器洗い、洗濯物のとり入れ、畳む、掃除、菜園の手伝い、ちぎり絵等)散歩、ドライブ、歌、演劇観賞等の気分転換をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺には良い散歩コースがあり、ゆっくり談話しながら歩いている。気候が良い時は敷地内の大きい泰山木の下でベンチで歌やお茶で気軽な気分転換もある。季節に合わせて車の遠出で外食や小旅行があり、とても喜んで頂いている。	外気浴を兼ね事業所の周辺をゆっくり散歩したり、気分転換を図る為庭先の泰山木の下でお茶等を楽しみ、外で過ごす時間を作っている。深山公園・与島・倉敷美観地区へ遠足に行ったり、法人の老健へ出掛け、演劇・歌・カラオケを鑑賞したり等外出を楽しんでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から預かっている小遣いから欲しい物がある時は、一緒に出掛けている。自分が選んで決められる様に支援し、支払いを見守っている。自分でお金を持っていたと言われる人は管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日頃の生活の様子の写真を暑中見舞いとして作成した物を、宛名や文が書かれる人は完成させ投函された。書くのが難しい人はお手伝いした。電話をしたくても聞き取れない人はその都度代理でお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭先には季節が感じられ花が咲いてる。玄関は四季に合わせて変える壁絵があり、その畳の長椅子を好まれる人もある。リビングには行事や外出時の思い出の写真が貼られ話題作りになっている。所定の席で向かい合い手作業や談話をし過ごされてる。	庭に季節の花を育て、玄関先には菊の大輪の鉢等を飾り、季節を感じながら生活が送れる様努めている。行事や外出時の思い出の写真、季節の作品等を適所に飾り、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアより少し離れた所のテーブルでゆったりと外を見たり又、長いソファに腰を掛け寛げる環境がある。一人ひとりの所定の席がありそこが落ち着ける場所となっている人もある。居室を自由に出入りされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物の持参をお願いしている。室内にはご家族と一緒にの写真やお誕生日の色紙が飾られている。又、好きな歌手の顔写真を大きく延し貼っている。その人がテレビに出る時はチャンネルを予約する。	居室の入口に表札を貼り、壁紙とカーテンを部屋毎に変えて、他室と区別している。テレビ、家族との写真、カレンダーや思い出の色紙を飾り、自分らしい部屋作りをしている。家具は使い易い様に配置を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の入り口は氏名と各人が違う花の表札で覚え易い。トイレ、浴室、壁の手摺で安全に移動できる。足の不自由な人が毎日ダンス内を見られる為、ダンスをベットに近づけ椅子に座り気が済むまでできる様にしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200438		
法人名	医療法人六峯会		
事業所名	グリーンピースあま城 かがやき		
所在地	倉敷市藤戸町藤戸1406-1		
自己評価作成日	H26年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200438-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階
訪問調査日	平成26年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲には、緑が多く散歩しながら新しい家が増えてきている様子を見たり、季節の野菜が色々と植えてあるのを見て昔を思い出して頂く事も出来ている。当ホームの敷地内の木陰で、外気浴やお茶を飲んだりして、ゆっくりと過ごして頂いている。又地域の行事にも参加させて頂き交流、親睦も深まっている。毎週歯科衛生士の来訪で口腔内のチェックとケアをし、2週間に1回の歯科往診で必要な人への治療もホームで受けて頂いている。美味しく食べられる食事への対応が出来ている。

医療連携や健康管理にも力をいれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりの思いを大切に、今までと変わらない生活をしている。内部研修でも理念を再認識して利用者様の個性を尊重とした対応に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年の地域の公園、溝掃除には、参加させて頂いている。又子供御輿がホームまで入って頂き触れ合いが出来ている。隣の施設で花の苗の購入、リサイクル等の交流が出来ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で家族の方も交えて認知症の対応、困難事例など話し合って活発な意見交換が出来ている。又地域包括支援センターに相談したり、交流は出来ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月の運営推進会議では、ホームでの取り組みや現状報告、困っている事も報告し意見を聴かせて頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターから参加して頂いている。 市からの研修も参加しており、解らない事は電話相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在ご利用者様の状況から玄関の施錠は、安全を守るためさせて頂いている。開錠に向けて検討、努力して行きたいと思う。身体拘束はどの様な言葉、態度、行動が拘束となるか内部研修で話し合い勉強をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても内部研修で話し合い意識を持って取り組み、日々の生活の中でご利用者の表情、身体的な異常の早期発見に気を配っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方は居られない。研修にも参加しており、必要時には、制度の利用を考えていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書、重要事項説明書、同意書を頂き説明を行い理解して頂き契約となる。不安疑問点は、いつでもお受けしている。契約内容に変更がある度には、説明し捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時には、ゆっくりと話しが出来るように心掛けている。玄関には意見箱も設置している。苦情受付窓口を設けて、意見を受け付ける体制を作っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットの毎月の内部研修で職員の想い、意見を出し合い解決しながら、より良い施設運営に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の声や勤務状況を評価し改善に向けて取り込んでいる。自己評価、自己目標の記入からやりがいのある職場へと、取り込み中である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の内部研修計画を基に毎月のミーティングを行っている。外部研修への参加もして報告書を提出し他の職員に復命している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護保険事業者連絡協議会、地域医療センターとの交流で輪を広げサービスの質の向上へと努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	前事業所のプランを頂き継続する様にして、ご本人、ご家族の要望を全職員が把握し関わる様にしている。又、入居前にホームの見学を勧め雰囲気や、職員の様子も観て頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学して頂き、環境、職員の様子を見て頂き要望、不安な点を聴きホームの方針を説明し話し合って理解が得られる様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネージャから情報を得てご本人、ご家族の要望を聞き、どの様にしたいのか、しっかり話し合い合意が得られる様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の体調に合わせて、出来ることを日常生活に出せるよう、声掛けしている。洗濯たたみ、食事作り、掃除、菜園の世話等を一緒にしている。食事、お茶の時間には一緒に談話しながら楽しい時間になっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お花見、夏祭り、毎月の外食などご家族が参加できる場を作り訪問しやすい場へと努めている。又、他医療機関への受診にも同行の協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所付き合いのあった方の訪問、そして夫婦、姉妹、親子での外出又月1度、ご家族の都合の良い日に一時帰宅などもしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の特性を考えて話しやすい人、気が合いそうな人との席にしたり、コミュニケーションが、スムーズになるよう、職員が間に入り楽しい時間が持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後にも入院先へのお見舞い、又相談の電話も入っている。同法人の老健に入所された方とは、度々訪問し交流は、続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行きたい所、食べたい物、したい事、好きな事、不安な事、困っている事等を各自の思いを聴く時間を持つようにしている。又ご家族からも情報を入手するよう努め、職員間での情報の共有に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者、ご家族、ケアマネージャーからの情報を基に職員間で事前に状態を把握しご利用者の生活スタイルを尊重したケアプランとしている。又馴染みの物の持参をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの習慣、生活歴、性格の情報を基に持てる力を生活の中に出せる様に声掛けをし、一緒にして思ったより出来たり、出来なかつたりの状態の把握に努め、次のステップに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族の要望を基にカンファレンスで職員の気づきを出し合って介護計画に反映しケアが統一出来る様にしている。何か問題があれば、その都度話し合って対処する様にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にサービス内容が記入しており、計画に基づいてのケアができてはいるが、モニタリングしやすい。状態変化時にはサービス内容の変更を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な要望に応じるには、体制的には難しい面があるが、他ユニットと協力して臨機応変にと考えている。時には職員がボランティアで要望に応じている。秋の小旅行はとても喜んでいただけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周りには自然を感じられる所がたくさんある。その人のペースに合わせて散歩などをして季節を感じて頂ける様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人及び家族の希望にそって昔からのつながりを大切にして、かかりつけ医と事業所の連携をとり看護師の24時間対応で支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に利用者全員の状態を把握し易い様に職員は変化を看護師に伝えている。必要に応じて医療的処理や相談を受けてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中には、面会をしている。又病院関係者に状態を尋ね退院後のプランに役立てている。退院日は、病院、家族に合わせて、いつでも受け入れる様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、ターミナルケアについては文書を作成し方針の説明を行い同意をもらっている。体調の変化があった時は、必ず家族に報告し相談して安心して頂けるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の出前講座でAEDと人工呼吸の研修を受け勉強した。応急手当や初期対応も看護師に指導を受けている。緊急連絡網も作成している。内部研修でも勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。自然災害に対する防災マニュアルも作成し、地域の方にも協力を得られるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの立場に立って、人格を尊重し、プライバシーを守ったケアを実践している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の人に自己決定をして頂ける様声掛けをしている。本人の思い、希望に添うように支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の暮らしの基本はあるが、職員の都合ではなく、その人のペースに合わせ一人ひとり、ゆっくりと過ごして頂ける様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身支度から始まり洋服選び更衣、身だしなみを整え一日気持ちよく過ごして頂く。又入浴の着替え外出の時の洋服も一人ひとり、相談しながら選んで頂く支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べるという事は大きな楽しみである。お茶の時間に時々食べたい物、季節の野菜などを聴き献立の参考にしている。又外食も趣向を凝らし色々な所へ出掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、形態は個々に合わせ調理している。毎日の献立は栄養士が立てた物を参考にバランスの良い食事作りを心掛けている。水分量は1日の摂取量の表を作り声掛けして細目に摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの誘導、自分でされる方は、見守りにて清潔保持に努めている。毎週火曜日は歯科衛生士による口腔ケアを実施、月2回の歯科医による歯の治療が行われおいしく食べられる支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して声掛け誘導、介助をしている。自立の方もトイレの時に自尊心を傷つけない様に、下着を見せて頂き汚染している時は交換している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れたメニュー作りをしたり1日の水分摂取表を作り十分な水分を摂って頂く。又冷たい牛乳の提供をする。適度の運動、散歩をする。必要時には、主治医と相談して薬剤でのコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞き、自分のペースでゆったりと入浴できる様に支援している。又入浴出来ない時には、清拭をして、更衣をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に生活習慣を把握し、本人の状態に合わせ休息を取ったりして、自分の生活リズムを整えられる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員として看護師の配量があり薬の管理は出来ている。職員も症状の変化、薬の必要があれば、必ず伝達している。薬剤師を招いて薬の勉強もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、シーツ交換を手伝って下さる人、野菜作りが得意な人、手芸が好きな人、色々な場面で中心になって頂き皆で楽しめる様に支援している。ゴミ箱を、広告ちらしで自分から折って下さり利用させて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩、買い物は本人の希望にそって外出。又気分転換にドライブを希望される方などは個別に支援、対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より預かっている小遣いから、欲しい物がある時は、一緒に買いものに出掛けている。自分で選んで決められる様に支払いも自分でして頂く様に支援している。現金を自分で管理できる方はおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、自由に電話への支援をしている。ゆっくり話が、できる環境へと配慮している。携帯電話を持って必要時に息子さん、妹さん等にかけて交流も続いている。年賀、暑中見舞いが書ける方は、通信出来る様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みの物、家族や職員と一緒にの写真自らの作成した物が飾ってある。職員持参の季節毎の花も生けてある。ゆっくりテレビを観たい時は、ソファでくつろいで頂いている。又ベランダに出て外気浴もして頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席を決める時、話の合いそうな人、あまり関わりを好まない人、など性格を十分考慮している。所定の席はある。他にソファでくつろいだり畳コーナーで過ごして頂ける様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の説明で今まで使用されていた馴染みの物を持参して頂く様、話している。居室ごとに、壁紙、カーテンの柄が違えてある。ベッドの位置は、その方の使い易い様にして頂く。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の入り口には、氏名と、それぞれ、異なった花の絵がついて覚えやすくしている。壁側には、手すりがあり、安全に移動できる様になっている。又呼び出しコールとその人が使い易い物で「鈴」にしている人もある。		